

# 令和4年度結核対策推進会議に参加して

水戸市保健所

保健予防課 澤島 暁子

水戸市は、令和2年4月1日に県内初の中核市となり、保健所を設置いたしました。保健所設置と同日に、市内で初めて新型コロナウイルス感染症患者が確認されて以降、この3年間は、新型コロナウイルス感染症との戦いの日々となりました。

このような中、思いどおりには結核対策を進めてこれられませんでした。毎年、この「結核対策推進会議」には参加させていただき、学ばせていただいた内容を本市の結核対策に役立ててまいりました。

今年度は、「結核低まん延時代の結核対策 新たな展開」を会議テーマとし、「結核医療の質の強化」、「基礎疾患がある結核患者の療養支援」、「今後の結核対策の方向性」の3つの講演が開催されました。

それぞれの講演を通して痛感したことは、やはり職員の専門的な知識や経験の確保・向上の難しさです。保健所は地域における結核対策の中核的な拠点ですが、本市保健所は開設してからまだ3年しか経過しておらず、しかもこの間、配置されている全保健師が新型コロナウイルス感染症対応に明け暮れていたため、深く結核対策に関わることができておりません。

このような中、今回の講演でお話いただいた「奈良県結核対策医師相談・地域連携強化事業」については、大変興味を持ちました。当該事業は、地域と連携し、結核診療体制を強化することを目的に開始された事業で、結核の専門機関の医師が地域の結核対策に関わる職員からの相談に応じたり、研修会を開催して最新情報を提供したりしていただけるとのことでした。もし身近に、専門医師による相談窓口があればとても心強いく感じました。このような事業が全国的に広がっていくことを、強く望んでいるところです。

また、実際の事例に基づいた説明を数多くいただいたことも、大変勉強になりました。私たち保健所職員が関係機関と連携し、行政と現場が協力しながら、地

域の結核予防対策を担っていくことがいかに重要であるかを再認識させていただきました。結核健診の受診勧奨や結核についての正しい知識の普及啓発等に積極的に取り組んでいきたいと改めて感じました。

さらに、外国出生者の結核患者支援は、言語の障害が大きな課題でしたが、さまざまなツールを紹介していただいたので、早速支援の際に利用していきたいと思います。

講演後に行われたワークショップにおいては、結核に罹患した技能実習生の孤独と不安、お金の問題など、厳しい現状が伺えました。本市で結核の治療をした技能実習生も、症状が落ち着くと、「お金を稼がないとならない」、「一日も早く仕事に復帰したい」と訴えてくることがありました。この時には、幸いにも、勤務先の協力が得られ、会社の通訳者を派遣してくれたり、上司がDOTSをしてくれたり、疾患を理解して支援いただけましたが、今後さらに外国出生者の結核患者が増えると、さまざまな支援困難ケースが出てくるだろうと想定しているところです。

まだまだ私自身も経験不足で、日々奮闘中ではありますが、今回学ばせていただいた研修内容を生かし、結核対策における知識をさらに広げ、地域の結核対策に貢献できるよう、全力で取り組んでいきたいと思えます。

今後とも、このような素晴らしい学びの場を続けていただけるよう切に願って、結びとさせていただきます。🐱